

森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別地域講習会 西日本ブロック（中四国）

開催日：2014年8月21日（木）

場所 岡山県吉備中央町吉川 7537-5（調査地点コード 330200）

講師 石塚・今矢（森林総研本所）、酒井・森下（森林総研四国支所）

オブザーバー 齋藤（林野庁森林利用課）

○概要

西日本ブロックを担当する熊本県森林組合連合会の担当者2名、（株）アドプランツコーポレーションの担当者3名を対象に地域講習会を実施した。講習会前日まで、中国・四国地方は台風等の影響による記録的豪雨がたびたび続いており、当日の天候および講習予定地（以下調査地）の状況が心配されたが、時々晴れ間ものぞく曇りの天候の中、朝9時に開始した現地講習会は、予定通り16時に総評まで含めた全ての講習を完了した。

朝8時半に道の駅「かよう」で待ち合わせて、自動車3台で10分程度離れた調査地点近傍まで移動した。調査地は車から数分の水田に隣接するコナラを主体とする広葉樹林で、傾斜は10～20度程度の緩やかな斜面で、車から調査地へのアプローチに支障はなく、講習も円滑に進めることができた。

受講者5名中4名は、過去2年、本事業の調査を担当してきたため、通常の調査手順を進めてもらい、講師が指導およびアドバイスする形で講習をおこなった。調査プロットを示す杭のうち、北の杭の発見にとまどったため、特に、落葉広葉樹の調査地では、杭がかなり深い落葉に埋もれることがあるので除けて探すよう指導したところ、無事に発見できた。10時前から3班に分かれ、土壌断面調査を開始した。受講者のうち1名は、土壌調査初心者であったため本所からの講師が1対1で基本的な土の掘り方（スコップで格子状に根を切断して掘り上げる、根は掘り上げた土と別にすると埋め戻し作業の負担が減るなど）から講習をおこなった。残りの2班については、支所の講師がそれぞれ担当して、本所からの講師が3班それぞれを、適宜巡回する形で講習を進めた。2班は、経験者のグループだったが、断面調査では、掘りやすさだけを考えて調査地点を移動しようとしていたことや、断面上方に向かず断面を作成しようとしていたことなど、いくつか理解不足の点が見られたため、その場で調査方法マニュアルを確認してもらい、それに従うよう指導した。

その後、約1時間かけて断面を作成し、途中、昼食を挟んで、有機物層および土壌採取をおこない、14時頃、埋め戻しまでの土壌調査が完了した。基本的な手順自体には大きな問題なかったが、複数年調査を担当している特有の問題として、使用している道具の劣化について指摘した。特に、剪定鋏の切れ味が鈍く、断面の整形、円筒試料の採取と整形にとまどっていた。切れない剪定鋏は、作業効率が悪化するばかりか、円筒試料の整形の際に不必要な攪乱を生じるので、しっかり手入れをするもしくは買い換えるよう指導した。土壌断面調査地点のうち1地点では、深さ11cm以下の断面全体が礫で占められていたため、

ブロックサンプリングをおこなった。このような場合は、礫上部までの土壌を全て採取すること、11cm 以深が礫で全て占められていることを調査表備考欄に記載するよう指導した。

全ての断面調査が完了した 14 時過ぎから、枯死木調査に関する講習を全員一緒におこなった。今回の調査地は、立枯木および倒木、分解度 5 の根株が多かったため、東西、南北の 2 本の調査を終えるのに 1 時間半程度を要した。枯死木について分類の難しいものも見られ、講習会としては良いサンプルに恵まれた。特に「根株から幹折れしてラインにかかっている枯死木は、マニュアルの定義上立枯木に該当すること」「一見、幹折れしていて立枯木に見えても、高さ 1.5m を超えない場合は根株」であることを改めて指導した。また、分解度の判定に関して、数個判定が間違っていたので正しい分解度に訂正した。

車まで戻ってサンプルを確認した後、講習会中の主な指摘事項を再度確認し、何よりも安全に調査をおこなうよう指導して、16 時頃、その場で解散となった。

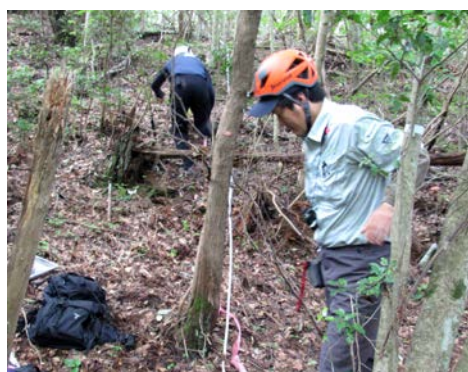
複数年度に渡って、調査に慣れてきた担当者については、大筋の手順については問題ないが、道具の劣化、断面や円筒試料の整形の手順など細かい点で、マニュアルに書かれているにも関わらず、きちんとその通りに行われていない点が多々見受けられるので、時折、お互いの作業状況をチェックしあうこと、そして何よりもマニュアルを再度熟読することの必要性があると感じ、受講者らに伝えた。



①受講者らを先頭に水田向こうの調査地点まで移動。講師らは後からついて、アプローチ方法をチェック。



③調査経験者には、いつも通りに作業を進めてもらい、講師は、必要に応じて指導・アドバイスをを行った。



②調査地点の林内・林床の様子。受講者らが調査プロットの確認と調査地点の設定を行っているところ。



④枯死木調査（根株の撮影）の様子。立枯木にも見えなくもないが、1.5m を超えないため根株と判定した。